

屋久島生態系モニタリング

屋久島南部の植生垂直分布調査 (平成21年度調査)

**標高400mプロットの植生

本プロットの途中にウバメガシやヤクタネゴヨウの大径木が出現、局所地形は、山腹中部の尾根から北側の小沢にかけ平衡急斜面で、平均斜面方位は北西向き。尾根幅は比較的広く、イスノキ・マテバシイ・スダジイの生育が旺盛だが、ヤクタネゴヨウの生育は見られない。

【高木層】マテバシイ・イスノキ・スダジイが多く、シキミ・イヌガシ・サカキ・タイミンチバナ・ツゲモチ・ミズバイ・ヤクシマオナガカエド・カクレミノ等がある。スダジイは大径が多いが、植被率はマテバシイやイスノキの方が多い。5年前はイスノキが優占したが、今回はイスノキからマテバシイに変化した。**【亜高木層】**タイミンチバナ・サクラツツジが多く、サカキ・マテバシイ・ヤブツバキが混生、樹冠がよく発達。**【低木層】**タイミンチバナが最多、サクラツツジ・シキミ・イスノキが生育している他、イヌガシ・サカキ・アデク・オニクロキなどが出現。個体数が多いが、植被率は低い。低木層のサクラツツジ優占から、今回タイミンチバナに変化。両種とも、ヤクシカが摂食、低木層のサクラツツジのダメージが大きい。**【草本層】**イスノキ・イヌガシ・タイミンチバナ・ヤマモモ・クロバイ・アデク・サクラツツジ・ヤブツバキなど高木・亜高木の稚幼樹やヨゴレイタシダ・センリョウ・アリドオシ・シラタマカズラなどが出現。草本の種類や個体数が少なく植被率も低い。**【群集および標徴種】**イスノキ・タイミンチバナ群集と認められ、標徴種はオニクロキ。**【前回(平成16年度)との比較】**階層毎の優占種は、高木層(イスノキ・マテバシイ)、低木層(サクラツツジ・タイミンチバナ)にて変化。樹高、植被率の変化は特になが、前回亜高木層のスダジイやサカキ・ツゲモチ・イヌガシ・タイミンチバナ等一部が成長、高木層へ移行。前回低木層のタイミンチバナ・サクラツツジ・サカキ・マテバシイ・シキミ等が亜高木層へ成長、前回草本層だったシキミやヤブツバキ・ヒサカキ等一部低木層へと成長。草本層から低木層へ移行したシキミやヤブツバキ・ヒサカキなど下層植生構成種が嗜好種から非嗜好種へ変化。

等も同行し、一日目は、早速、島森林環境保全センター職員のほか、環境省、地元関係者等も同行し、一日目は、早速、島森林環境保全センター職員

国有林内のレク森、世界遺産地域等を視察

世界遺産屋久島連島



著名スギ紀元杉の説明を聞く一行

石井一会長を筆頭に、地元選出網屋信介衆議院議員等衆参合わせて総勢八名の議員団の方々が、屋久島世界自然遺産の現状等を知るため、四月八日(九日までの二日間)、屋久島を訪問され、屋久島森林管理署管内の国有林にある豊かな自然環境を有するレクエリアションの森、世界遺産地域等を精力的に視察されました。視察には、九州森林管理局、屋久島森林管理署、屋久島森林環境保全センター職員



白谷雲水峡にて

ギの雄姿を前にして、多くの着生植物を纏った荘厳な姿にしばし感動された様子でした。その後、エネルギーのあり方が注目される昨今の社会情勢を反映し、安房の水力発電施設を訪問、午後からは、遺産地域でもある西部林道を見学したほか、ウミガメ産卵地の永田浜等を訪問され、一日目の行程が終了しました。翌二日目は、屋久島環境文化センターの屋久島の映像、ジオラマを見学後、白谷雲水峡を訪れ、屋久島の代表的な自然環境の一端を体験されました。午後は、今回の視察訪問の目的の一つ地元関係機関、代表者等との意見交換会が行われ、近年の観光客・登山者急増に伴うトイレ利用や環境保全の問題等屋久島が抱える様々な課題につき、要望・意見を受け、屋久島の将来像を見据えて屋久島の自然環境等貴重な地域資源を活かした地域振興等について提言されたほか、今後、議員連盟の立場から貢献していただきたいの発言がありました。

四月十七日(十九日)にかけ、屋久島自然休養林(荒川地区及び白谷地区)の遊歩道沿いに、倒木や落枝の恐れがある危険木等の除去作業を実施しました。これらの危険木は、屋久島レク森保護管理協議会により、過日行った検討会や点検(洋上アルプス205号にて既報)で、早急な措置が必要とされたもので、荒川地区は、紀元杉の最頂部の枯枝と着生したヤマガルマ枯木、仏陀杉歩道のヤマガルマ、沢津橋付近のツガの大径枯木、白谷地区は奉行杉コースのツガ等が対象とされました。

作業には万全を期すため、好天の日を選び、地元樹木医の荒田氏が招いたツリクライマーや空師(そらし:高木や巨木に登り枝下ろしや伐採を行う職人)の専門家等8名により、樹高約20mの上で巧みなロープワークとチェーンソーで処理し、段取りよく丸太や枝が地上に降ろされました。その作業は、足場の不安定な木の上で常に危険を伴いますが、緊張感の中にもキビキビとした作業手順で無事に

屋久島の植物



マルバアオダモ
(モクセイ科)

北海道から九州に分布する落葉高木。平地から山地まで日当たりの良いところに見られる。葉は対生し、奇数羽状複葉、まれに単葉。花は、新枝の先に円錐花序をだし、白い花を多数つける。

花期四〜五月。

自然休養林の危険木処理に空師等活躍



危険木除去作業の様子

終了しました。この結果、自然休養林内では当面の危険な状況はなくなつたとところですが、引き続き、利用者の安全確保のため、点検等に努めていくこととしています。

なお、紀元杉は多くの観光客が訪れる著名スギとして知られ、最頂部の枝もなじみのある姿でした。現状保存を検討しましたが、将来に亘つての安全確保は困難と判断されたため、最終的には処理はやむなしとしたところでです。

今後は、著名スギの一部としての活用について、検討していくこととしています。

屋久島森林環境保全センター 平成24年度業務予定

◆ 森林生態系保護

- (1) 地域推進対策
 - ① 旧天然生林管理水準確保緊急対策事業（GSS）
 - ア 森林保護員の雇用によるきめ細かな保護管理等
 - イ 入込利用者への指導・啓発
 - ② 旧森林生態系保護地域バッファゾーン整備事業
 - ア 縄文杉旧道植生現況調査及び周辺整備
 - イ 縄文杉展望デッキの改修整備に関する基礎調査等
- (2) 保護林等整備・保全対策（旧世界自然遺産保全緊急対策事業）
 - ア 屋久杉の樹勢回復措置（縄文杉他著名杉）
 - イ 森林生態系モニタリング調査（屋久島中央部植生分布調査・局）
 - ウ 遺産地域周辺人工林等管理方策検討調査（局）
 - エ 外来種アブラガリの駆除及びモニタリング（局）
 - オ 登山道周辺の植生影響調査（局）
- (3) モニタリング
 - ア 雨量観測
 - イ 写真映像による調査（環境省との共同調査について実施）
- (4) その他
 - ア 森林生態系保護地域等の森林パトロールを実施
 - イ 縄文杉 Web カメラの管理（保守）



◆ 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1) 森林教育等の実施（他機関等との連携・協力）
- (2) 自然休養林内等での指導・パトロールの実施
- (3) 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への助言・指導
- (4) シカ対策におけるシカ柵の保安全管理等



◆ その他

- (1) 関係機関との連絡調整
- (2) 学術調査研究等に係る入林手続きの接受及び指導等
- (3) 広報紙「洋上アルプス」の発刊及び年報の作成
- (4) 資料等の整備・拡充

◆ 治山事業

- (1) 谷止工（2基）
溪床の縦横浸食を防止して、溪床の安定・山脚の固定・土砂流出防止・調整を図ることを目的としています。
- (2) 山腹工（1箇所）
崩壊又は拡大崩壊のおそれのある山腹斜面に対して、山腹斜面の安定を図るとともに、山腹緑化工による植生の導入を図ることを目的としています。
- (3) 本数調整伐（14 ha）
適切な保安林の整備により、水源かん養、災害の防止と軽減等に資することを目的とした保安林整備事業の一環として森林整備を行います。



《白いサギは何サギ?》
「白鷺」という呼び名は、全身が白いサギの総称であり、屋久島では春から初夏にかけて、主に左の4種類を観察できます。ただし、この時期はどのサギも、夏羽、冬羽、換羽中の個体が混在し、さらに婚姻色の出ている個体も混じるため、慣れないうちは識別が難しい鳥達です。この他、稀な旅鳥として訪れる「カラシラサギ」という種類も、屋久島で観察することができる白いサギです。

屋久島の野鳥